

本校の卒業生 稲田 ^{せいすい}盛穂 様 からの寄贈

いってんばいかのずい

さんぜんせかいにかんばしい

『 梅画賛 < 一點梅花薬 三千世界香 > 』

～稲田盛穂氏による書の説明～

冬の雪、寒気をしのぎ百花に先がけて一輪の梅花が咲けば、その香りが世界中に広がる。

全ての物事は、すべてそれを存在せしめる様々な条件、外的要因によって成り立っている。それらのうち一つでも欠ければ、物事は何一つとして成立し得ない。

一輪の梅花であっても、無限数の条件を背景とし、その結果として咲いている。およそ何であれ一つの存在の働きがもつ力は、必ず他の一切の存在に入り込んでいる。

たった一輪の可憐な梅花の香りも、他の全存在の中に入り込み、全世界に広がって香気を放っている。

～稲田盛穂氏の紹介～

筆禅道師範。朝日カルチャーセンター（新宿）講師。悠遊筆禅会（東京・名古屋・水戸・千葉）主催。水戸市生まれ。

少女期より様々なボランティア活動に参加。地域市民に呼びかけ、「生活学校」を開設。のち、「21世紀のいのちのかい」を創設した。また筆禅会師範・寺山旦中氏に師事し、筆禅道を学ぶ。93年より都内、千葉・水戸・名古屋でも教室を開き、英国、ラオスなど海外でも筆禅道を講じている。

※「筆禅」とは、「筆で禅を行ずる」の意で、いっさいの煩いを捨て、《いま・ここ》に成り切ることを大切にします。

※「成り切る」とは、心と体を一点に全集中させ、独楽がフル回転して静止するかに、「没我」の境を楽しむこと。